



# 通信

HP 学校だより  
R6. 9. 3  
NO. 18  
文責 伊藤美佳



## 自分のことを「分ける」経験

長いと思っていた夏休みが終わりました。

今年の夏は、「酷暑」の一言に尽きるのではないのでしょうか。子どもたちにとっては、外で元気に遊ぶことは難しかった夏休みだったかもしれません。しかし、その中でも自分で決めてやり抜いたことや新しくチャレンジしたこと、お家の人を笑顔にしたことなど多くの経験ができた夏休みであったと願っています。

さて、始業式に「分かること」は「分けること」というお話をしました。子どもたちは、「分かった！」となると、とても張り切って話をしたり、取り組んだりします。「分かること」は、学びを継続していくための原動力となります。

しかし、「分かること」があっても、「分からない」ことが多すぎると、「分からない！」とパニックを起こしている子を時々見かけます。そんな時は、「どこまで分かっている、どこから分からないのか、分けて考えてみよう」と提案します。分けて考え、分からなかったことが明確になったことで、「分かった」とうれしそうな顔を見せてくれる子もいます。

ただし、「分ける」ためには、時間を要します。授業、業間といった時間内に「分かった」にできないことも多々あります。「分けて」考えることができれば、どこから勉強し直せばいいか、どこから話をすればよいか理解できるのに、時間切れでできなかったなんていう歯がゆい思いをすることもあります。子どもたちは、こういった経験を何度もすれば、自分の力で「分からない」を「分けて」考えるようになると思います。ただ、最初のうちは他の人の力が必要なかもしれません。もちろん、学校でも寄り添っていきますが、お家の人と学んでいるときやお話しているときに、「分からない」と子どもが言えたときには、「どこまで分かっているか分けてみよう」と言って、一緒に「分ける」ことをしていただけるとありがたいです。低学年のうちなら、「分ける」作業もしやすいと思います。学年が上がると、何となく積んできたことが多くなり、突然「分からない！」に突入します。その学年で分からなくなったのではなく、実は前から「分かっている」ことがあり、「分かっていた」ところまで戻っていくことになるため、あきらめてしまうこともあります。「わからない！」と言ってくれたときに「チャンス」ととらえ、「分ける」ことを経験させてください。「分かった！」と目を輝かせる子どもたちの顔が見られる幸せを味わうことができます。

## 気配りのできる子どもたち

夏休みの全校出校日も蒸し暑かったです。長い距離を歩いてくる班も多い豊坂小学校。班長は、適切に休憩して水分補給をさせてくれています。その場面を見られた地域の方が、「ああやって班長さんが気を配ってくれているってすごいことだね。」と言ってくさいました。

登校中けがをした子がいたり、遅れてくる班がいたりしても、必ず誰かが教えてくれます。「あ[ ]がれ」の「こ＝困っている人を助けられる」そんなすてきな豊坂っ子を自慢に思います。